



2

3

4

1. 斎藤監督の最後のミーティングでは「窮して変じ、変じて通ず」という言葉が送られた / 2. 下級生に想いを引き継ぐ前主将の赤堀さん / 3. ぎゅっと抱きしめ、下級生との別れを惜しむ安田さん / 4. 斎藤監督から色紙を手渡され、笑顔で話す山浅さん

「新たなステージへ」

3月1日㊦、昨夏の甲子園で全国ベスト4の活躍をした聖光学院野球部で送別会が行われました。赤堀前主将は「みんなと日本一を目指して感動の夏になりました。ありがとう。」と話し、「一緒に野球ができて良かった。最高のチームを作ってください。」と下級生にエールを送りました。斎藤監督は「感謝する気持ちは歴代ナンバーワンの世代だった。当たり前のことができないコロナ禍だからこそ、無類の強さを持つことができた。」と、卒業生にはなむけの言葉を送りました。卒業、そして新たな出発とともに、第59期生から第60期生・第61期生にバトンが受け継がれました。



市長コラム 第52回

「ハーモニー」

須田博行

音楽は私たちに癒しや喜び、感銘を与えてくれます。そして合唱は、多くの歌声がハーモニーとなり、音の重厚さや広がり人が人々を楽しませ感動させてくれます。

私も歌うことは好きで、昔は、友だちとカラオケに行くことと必ず歌ったのがジローズの「戦争を知らない子供たち」でした。サビの部分になると友だちの「ハモリ」が入ってきます。私はつられないように主旋律を必死で歌います。結果、二人の声が上手くハーモニーを奏で他のお客さんから大きな拍手をもらったこともありまし

た。この歌を作詞した北山修さんは、初めて曲を披露した大阪万博のステージでこんなことを言っています。『僕らは戦争を知らない子供たちだけど、よその国では戦争を知っている子供たちもたくさんいます。100年後、200年後に世界中のみんなが、この曲

のタイトルと同じような音楽会を開けたらすごく幸せだと思っています』と。

さて先日、やながわ女声コーラス創立50周年記念演奏会がありました。洗練されたハーモニーに、会場全体が感動に包まれた素晴らしい時間でした。コーラス結成時の会の名前は「まゆ」だったそうです。一本一本の糸が重なり合って絹織物になるように、一人一人の違った声がひとつになり、重厚で心地よい新たな響きになることを願って命名されたと同じでした。

この世の中も、それぞれの色を持った人がお互いに認め合い、それぞれの色で輝くことで新しい発想が生まれます。伊達市は旧5町が合併して17年が過ぎました。それぞれの地域がそれぞれの色で輝き、伊達市全体としてハーモニーを奏でるまちにしていきたいと思っています。